

指揮者プロフィール



Mark Haydn Robinson
(マーク ハイドン ロビンソン)

英国ウェストヨークシャー州ブラッドフォード出身。7歳からブラックダイクミルズバンドで首席トロンボーン奏者であった祖父よりコルネットを習い始める。ブリッグハウス&ラストリックバンドなどでソプラノコルネット奏者として活躍の後、英国王立音楽大学にて指揮をジョージハーストに師事。ダルムシュタット国際音楽研究所へ奨学金留学し指揮をペーテルエトベシュに師事。2006年BBCフィルハーモニックオーケストラを指揮。2000～2010年マンチェスターのウィルムスロウシンフォニーオーケストラ常任指揮者。2003～2011年ブラッドフォード大学の音楽・芸術監督。2015年に来日。Gabaで英語講師を勤めつつ音楽活動の場を拡げている。



川端 寛
(かわばた ひろし)

東京理科大学数学科卒業。1975年より東京都内の私立高校に勤務し吹奏楽部を立ちあげる。1987年よりウィーンにて1年半、ウィーン国立音楽大学指揮科カールエステライヒャー教授に師事。以後、2004年までの18年間は、1年の3分の1をウィーンやフィレンツェで過ごす。故・井上謹次氏（元東京ブラスコンコード主宰者兼指揮者）から音楽全般、吹奏楽部の運営・指揮法を学ぶ。東京ブラスコンコードでは、2013年の第26回演奏会から指揮者を務める。

(写真提供 株式会社フォトライフ)

東京ブラスコンコード (Tokyo Brass Concord)

東京ブラスコンコード (TBC) は、東京都内を中心に活動している英国スタイルの金管バンドです。日本では非常に限られた数の演奏団体しかなかった1981年1月、当時の指導者である故・井上謹次氏を主宰者兼指揮者として発足し、活動を開始しました。英国スタイルの金管バンドは、コルネット、ユーフォニアムなどのサクソルン属や直管系のトロンボーンといった金管楽器と打楽器で構成される約30名のバンドで、本場英国では200年近い伝統のある演奏形態ですが、日本で活動が盛んになってきたのは近年のことです。この演奏形態はまだ多くの方々に耳慣れないと思われそうですが、いわゆる「吹奏楽」とは違い、ブラス（金管楽器）と打楽器のみの編成による合奏であり、同属の金管楽器群から生まれる響きは繊細さと輝かしさを持ち合わせています。私たち、東京ブラスコンコードではそうした美しい響きを求めて練習に励んでいます。演奏は、英国のトラディショナル（民謡）から金管バンドのために書かれたオリジナル、クラシックの編曲まで幅広い曲目を取り上げています。活動は、年1回の演奏会（東京：上野学園 石橋メモリアルホール）を中心に、各方面の演奏会に参加させていただいております。